



松本清張賞受賞

阿部 智里さん 20歳
荒口町

大好きな物語をずっと書き続けたい

時代小説の名作家を数多く輩出してきた松本清張賞に史上最年少で輝いた。521作品の中から見事選ばれた受賞作は「鳥に単は似合わない」。原稿用紙600枚の長編小説で、平安時代を思わせる異世界が舞台の和風ファンタジーだ。

「受賞の知らせを聞いたときは、頭が真っ白になりました。今でも信じられない気持ちでいっぱいですが、家族や友達も喜んでくれて本当にうれいんです」

作家の道を志したのは小2のころ。ファンタジー小説「ハリー・ポッター」シリーズ（J・K・ローリング著）と出会ってからだ。それ以来、思い付いたアイデアを生かせるように、ノートに書き溜める習慣を今も変わらず続けている。

「受賞作品は、中2の頃にふと思いつ

かんだイメージを元に書き上げました。時には10時間以上書き続けたり、数え切れないほど推こぎを重ねたりしました。粘り強く頑張ったかきがありましたね」

物語を書くときは、自分の経験を大切にしていく。中学・高校で打ち込んだ柔道やミュージカル、日常生活などこれまでの経験の全てが生かされているという。

「動きのあるシーンでは、柔道の経験が役立つことも。また、私の作品には花がよく出てきます。これは花の多い前橋で育った影響が大きいですね」

今後は自分が生きている風土を生かした物語を書いていきたいと語る。あふれんばかりの才能を思う存分発揮し、言葉一つ一つに思いを込めた素晴らしい作品を世に生み出してほしい。



食や健康について熱心に学ぶ

5月29日、前橋テルサで消費者講座を開催しました。食アドバイザー・垣田達哉さんが「放射能から子どもの食を守る方法」と題して講演。放射能の基礎知識や健康への影響などの話に、参加した65人はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。



歯の衛生週間に多彩な行事を

中央公民館で6月5日、歯と口の健康フェア2012を開催しました。歯磨き指導や相談、講演会など、歯の衛生週間に合わせた催しがいっぱい。訪れた親子連れやお年寄りも、健康な歯と口でいつまでもおいしく食事ができることの大切さを改めて感じていました。

未来への贈りもの

本市収蔵作品

清水刀根

『舗道』 昭和8年

油彩・カンバス

(162.0センチ×130.5センチ)

ヨーロッパの街中を思わせる「舗道」と名付けられた本作品は、通りを行き交う人々の群像が描かれています。中央の女性が着ている黄色と黒色のストライプの服が画面を引き締めており、ほかすように描かれた背後の人物たちによって画面に奥行きを出しています。構成的な作品ですが、暖かな色彩でまとめられています。



石川町（現・紅雲町）に生まれた清水刀根さん。旧制前橋中学校（現・前橋高）在学時に図画教師の曾根末次郎に出会い、油絵を始めました。その後は、日本美術学校洋画科に進み、石井柏亭に師事。また、公募団体展に精力的に出品し、太平洋画会で太平洋洋画会賞、一九三〇年協会展で中村彝賞を受賞。さらに、中央美術展や白日会展、二科展でも入選・入賞しました。

兄が亡くなったことを契機に前橋へ帰郷します。その後も二科展への出品を続け、二科会の会員・理事として活躍しながら後進の育成に力を注ぎました。また、前橋で立ち上げた青研社では、久保繁造さんや狩野守さんなど当時の若手美術家たちが通い、清水さんの指導を受けました。群馬大では教授として活躍し、指導を受けた学生は500人に上るといいます。その他にも群馬美術協会の創立にも参加するなど、本県の美術教育の進展に大きく貢献しました。

問い合わせは 文化国際課 02868-50225



美しい自然と環境を将来に

6月2日・3日、けやきウォーク前橋で行われた「けやきエコ博」に、環境啓発やごみ減量パネルの展示、発電自転車の体験コーナーなどを出展しました。ごみの分別つりゲームには、親子連れなど1,300人が参加。楽しみながらごみの分別について学びました。



まちなかで新たな出会い

6月9日、中心市街地で「前コン」が開催されました。今回で4回目を迎える、新たな出会いを応援するイベントに、20代から40代までの男女1,600人が参加。期待に胸を膨らませながら飲食店に向かう男女で、まちなかは夜までにぎわっていました。